

まちのわだい

写真家 植田正治に敬意を表して

「HOMAGE展」開催中

現在、植田正治写真美術館では、「オマージユ・植田正治に捧ぐ、福山雅治・菊池武夫・堀内誠一」と題し、展覧会を開催しています。

これは美術館の開館十周年を記念して開催されているもので、タイトルにある三氏と植田正治との親交を軸に構成

された展覧会です。

このHOMAGE展を盛り上げていこうと、大山王国・NPO大山中海観光推進機構オマージユ応援団が先頭に立ち、七月九日(土)、ポランティアで参加された約八十名の皆さんの協力を得て「HOMAGE」の花文字が美術館の敷地内に作られました。

また、植田正治と親交の深かった方や来館された方に植えていただくために、「O」の文字の部分は花が植えられずに残されています。

皆さんもこの展覧会に足を運んだ際は、花を植えてみてはいかがですか？

この展覧会の詳細については、十四ページの美術館だよりをご覧ください。



花文字完成にバンザイ!!



西部消防ポンプ操法大会の様子

日頃の練習の成果を發揮

鳥取県消防ポンプ操法大会

七月十七日(日)、鳥取市賀露の賀露港で鳥取県消防ポンプ操法大会が開催されました。

この消防操法大会とは、消防職員・団員が消防活動を迅速かつ的確に行い、さらに安全性を確保するための、消防用機械器具の取扱い及び操作の正確性や素早さを競うものです。

この大会に西部地区からは、七月三日(日)に鳥取県消防学校で開催された西部消防ポンプ操法大会の二位までの分団が西部地区の代表として出場し、県内の消防団と消防法の技術を競い合いました。

伯耆町からは第四分団が小型ポンプ操法の部に出場し、六位入賞を果たしました。

やさしい気持ちが生えました

高齢者疑似体験

七月十三日(水)、町立溝口体育館で溝口中学校の一年生の生徒を対象に、高齢者疑似体験が行われました。

この体験では、米子介護普及センターの職員や溝口福祉センターの職員を講師に迎え、お年寄りの体の動きや車椅子の使い方等を学びました。

生徒たちはお年寄りの体の動きを知るために、メガネ、耳栓、おもり、杖などを身につけ、階段の昇り降りやコッ

プにお茶を注いだりしながら、体が自分の思うようには動かない不自由さを体験しました。

また、体育館内のスロープや段差、階段などを、実際に車椅子に乗り体験しながら、車椅子を押す時の注意点、段差や階段を上がる時の周囲の協力の必要性などを学びました。

この体験を通して、生徒たちには今まで以上に、お年寄り

へのやさしい気持ちが生えたとのことでしょう。



力加減が難しいんです